

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 29 年度

事業所番号	2790800292		
法人名	医療法人 嘉誠会		
事業所名	グループホームヴァンサンクソレイユ		
所在地	大阪市東住吉区湯里1丁目18番12号		
自己評価作成日	平成 30年 2月 10日	評価結果市町村受理日	平成 30年 3月 19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&jizyosyoCd=2790800292-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 30年 3月 3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ☆入居者、家族、スタッフが居心地良く過ごせる関係性であること ☆地域活動には出来るだけ参加し地域に根付いていくこと ☆スタッフ同士が認め合い良い関係であること ☆昼食やおやつをスタッフと一緒に楽しんで作ること ☆入居者一人一人の個性に合わせて出来る事をスタッフと共に行っていること ☆ケアプランは本人を主体とし立案していること ☆医療職としっかりと連携し安心して過ごして頂けていること

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域に貢献してきた医療法人グループが、「認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らしたい」という地域住民のニーズに応えるために開設したグループホームです。ホームの名前「ソレイユ」は職員みんなで考え、「太陽・ひまわり」を表し「誰からも愛され、必要とされる温かみのある存在でありたい」との想いが込められています。またユニット名も「人にとって、誰にも心地よい空間でありたい」と「陽だまり・そよ風」と名づけ、その想いを実践しています。職員は、利用者の気持ちを優先し、利用者が主人公である暮らしを支えています。利用者の望む暮らしの支援になる介護計画を立て、その人らしさを実現させています。同グループによる医療面でのバックアップは、利用者が安全で不安なく過ごせる毎日に繋がっています。「ホームの自慢は、職員の優しさ」と言うホーム長をはじめチームワークのよい職員が支える利用者の暮らしは、ほのぼのとしており、温かい雰囲気を感じさせるグループホームです。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>地域密着型サービスの事業所であることを意識し、事業所としての理念は作り玄関に掲示している。ミーティングでの説明や個別指導時に引用するなどしてスタッフにも理念を意識付けしながらケアに活かしたり地域活動に積極的に参加している。しかし理念のスタッフへの浸透は薄いのが現状ととらえている。</p>	<p>「①皆が居心地よく安心して暮らせる思いやりのあるホーム ②その人らしく自分らしく過ごせる生活作り ③互いを認め合い頼り合える関係作り ④地域とふれ合い活気ある開かれたホーム作り ⑤真心こもった『だいじょーぶだー』『まかしとき』精神」をホームの理念としています。開所前の朝礼で毎日職員全員で唱和し、理念を確認・共有して事業をスタートさせました。現在は、会議やミーティングで理念に触れ確認しています。職員は、ホームが大切に行っていることを理解し、毎日の支援で実践しています。理念は、ホーム玄関に掲示し、家族や地域の方にも理解してもらっています。</p>	<p>今後は、理念に沿って年度ごとに目標を立て、さらなる理念の実践に繋げては行かでしょうか。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会に加入し回覧板や運営推進会議においても地域の方から情報を集め日頃から地域活動に参加している。入居者と近所を散歩する時やスタッフの出入りなどの際は近所の方とは挨拶し合う機会も増えており日常的に交流できるようになってきている。	町会に加入し、地域での行事には積極的に参加しています。近くの小学校で開催される餅つき、敬老会、運動会、夏祭り、また月1回地域で開催されるふれあいカフェにも参加しています。散歩で顔なじみになった人たちとは、声をかけあう関係ができています。高齢化が進む地域の中で、「いつでも相談できる頼りになる存在でいて欲しい」と要望があり、地域住民の要望に応えることができるように取り組んでいく考えです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において事業所内での事例の説明や、同法人の老健と協力し地域の方対象に認知症カフェを開催し、季節に応じた講義(感染症など)や健康体操などを行い地域貢献をはたしている。何気なく尋ねてきた方にも相談やアドバイス等行い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議は2ヶ月に1回実施。日頃の催しや日常の何気ない生活をわかりやすく見てもらえるよう動画鑑賞にて行い、入居者情報や事故内容、その時に課題となっている内容を報告し意見やアドバイスをもらい意見交換している。意見については出来るだけその後の活動に活かしその成果など次回報告出来るように努めている。</p>	<p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催しています。家族、町会長や地域の方々、地域包括支援センター職員の参加があります。家族へは全員に会議参加の呼びかけを行い、毎回3名～4名の参加があります。会議では、利用者の日頃の暮らしぶりや催し物等を分かりやすく動画で伝え、参加者から好評を得ています。家族から季節を感じる飾りつけの提案があり、職員で考え、改善した事例があります。会議は利用者の日常が見える場所で行っています。会議録は1階玄関に置き、誰でも見ることができます。職員へはユニット会議で伝え内容を共有しています。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>主に地域包括支援センター職員に運営推進会議に参加してもらいホームの状況や運営面を報告しアドバイスを受けたり、近隣住民の困りごと等があれば相談し対応を調整するなどして日頃より気軽に連絡をとりあい関係性を深められるよう努力している。</p>	<p>地域包括支援センターを通して区との連携を図っています。グループホーム連絡会にも参加し、情報の交換と連携を深めています。今後も、区の担当窓口との関係をより築き、地域密着型サービス事業所として区との連携を深めていく考えです。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒事故等が原因で行き過ぎた安全対策とならないようにカンファレンスやミーティング・日々の申し送りで説明・意見交換を行い理解を深めている。玄関やユニットの扉は安全面を考慮しロックしている時間帯はあるが、出入りを希望する入居者には可能な限りスタッフが付き添いしながら外に出れるよう対応し少しでも開放的に過ごせるように配慮している。	身体拘束廃止や虐待防止に関する研修を実施し、職員間で人権を守るケアの確認を行っています。ホームでは玄関やユニットのドアは安全面を考慮し施錠している時間帯もあります。利用者に閉塞感を感じさせないように、職員と一緒に散歩や外出を日常的に行うことを意識しています。また、利用者が外出したような様子を察知したら、職員と一緒に付き添うなど、自由な暮らしの支援をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	区民ホールで開催された研修会に参加する等し、日頃からスタッフどうしが不適切で行き過ぎた声掛けや態度、対応がないか話したり、また見られたときはすぐに面接し意見交換や指導を行うように努めている。接遇をテーマに勉強会も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度について学ぶ機会を研修などを通じて持っているが、それらを職員に説明するなどの機会は未だ持っていない。制度があることや実際活用している入居者家族がいることを把握し実践しながら理解を深めている最中である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前や退居時、入院時など契約の締結やまた運営面の改定を行う際は面会時に口頭で説明したり、文章を配布するなどしてしっかり行うようになっている。また疑問を持たれた方に対しては後日個別に時間をとり追説明し努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族には面会時や普段から何でも言って下さいと伝えている。運営推進会議で出された意見はすぐに取り入れることが出来ないことには方向性を説明している。相談ごとにはミーティングを開き素早く対応し今後の運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議には数人の家族の参加があり、意見や要望を聞く機会にしています。職員は日頃から利用者や家族との会話を大切に、気軽に声をかけを行っています。家族から衣類の入れ違いや紛失等について意見があり、職員は素早く対応し改善した事例があります。</p>	<p>家族の意見・要望を更に有効にするため、ホームとして確認したいテーマに絞り、アンケートを実施されてはいかがでしょうか。その際、ホームの取り組み状況での良いところ、評価できる点も同時に確認されてはいかがでしょうか。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>スタッフが日頃から困っていることや、不満、また実施したいことがあれば言い出しやすいように雰囲気作りし、何気ないことでも気がついた事には話しかけるようにしている。またユニット会議や個別からでも出た運営面などの希望についても概ねスタッフと一緒に考え実行していけるよう努めている。</p>	<p>ユニット会議は月1回、全員が参加しやすい時間帯に開催し、ホームの運営について話し合っています。ホーム長は日常的に何でも話せる雰囲気作りを大切にしています。ホーム長・副ホーム長・ユニットリーダーを配置し、職員の意見や要望を聞きやすい体制が整っています。ホーム長と職員の信頼関係がよく、「みんなで考え、みんなで創る」の考えで、職員の意見が尊重される職場環境は、職員の士気を高めています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者やスタッフからの起案内容を理解し円滑に業務につけるよう整備してくれている。給与面でもスタッフがやりがいとなるように資格や研修終了によるキャリア形成手当等を設定している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部・外部研修を受ける機会は定期的に確保している。初任者研修や実践者研修の受講機会の支援があったり、キャリア段位制度も開始していく方向にある。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区内のグループホーム・小規模多機能ホームの連絡会に参加するなどして意見交換や他施設見学会を行うなど盛んに交流している。またスタッフ同士関わる機会もあり、地域一体となってサービスの質の向上を目指している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から可能な限り本人にお会いし、生活する上で困っていることや要望等について聞き取りし少しでも安心できるよう馴染みを作れるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より本人の心身状態だけでは無く家族としての不安や要望を聞き取り小まめに連絡するなどして、何でも相談してもらえるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームでの心身援助だけに目を向けず、本人・家族との話から理美容や眼科・歯科・福祉用具等が必要な場合は、ホームが中心となりすぐに対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や片付け、洗濯物たたみ、ホーム内外の掃除であったり、普段からのコミュニケーション等、無理のない程度に職員と一緒にいたり役割を持てるように支援し職員と入居者の関係作りに注意し対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、入居者の日頃からのニーズを面会や電話で家族に伝え、馴染みの理髪店へ外出したり、数多く面会にきて一緒に過ごして頂くなどし関係性が継続されるよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物に出る時は、時々入居者を誘い、以前働いていた店で買い物をしたり、馴染みの商店街を散歩するなど支援している。入居者それぞれの関係性については聞き取りやアンケートからある程度ではあるが把握し生活に活かしている。	入居前の利用者の暮らしぶりや、趣味特技、好きな事等、家族から情報を得ています。また、利用者との日常会話から馴染みの人や場所等を知ることもあります。職員間では、家族アンケートの記録で情報を共有しています。利用者が以前働いていた店や馴染みの商店街に買い物に出かけています。地域に暮らす友人や元の職場関係者が訪ねてくることもあり、職員は居心地良く過ごせるよう接待にも配慮しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者それぞれの個性や他者との相性を考え、談話・作業・調理・レク等を通じ声を掛け合ったり協力し合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族とは、道ばたで会ったり郵便物を渡しに行く時などにお互いの近況を話し合う仲であり、少しでもこれまでの良い関係が続くよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの際コミュニケーションを図り、希望や意向の把握に努めている。本人からの聞き取りなどでの把握が難しい場合はご家族に尋ねたり困難な場合はセンター方式を一部活用するなどして把握に努めケアプランにも反映させている。	職員は、チームワークをとりながら、利用者の気持ちを優先する支援を心がけています。利用者との会話や表情が伝わるケア記録の取り方になっており、日常のケアの中での気づきや発見は、職員間で共有しています。申し送りノートを、業務用・利用者用に分け、情報の共有の工夫を行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は相談記録やアンケート、また本人との会話やご家族面会時の会話等において、これまでの暮らしの把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランの総合計画書や ICF ステージング、日々の記録や申し送り・カンファレンス、また職員同士が積極的に入居者の情報交換を行うことなどで入居者の現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは6ヶ月に1度、また状態著変時に更新としている。日々の記録はケアプランに添った記録を心がけ、計画作成担当や管理者、介護職の担当が中心となり本人、ご家族等の意見を収集し、本人の想いに添った課題をたてカンファレンスを開き皆の意見を反映し介護計画をたてている。	利用者、家族より聞き取った情報を基にアセスメントを行い、介護計画を作成しています。介護計画は6ヶ月毎に見直し、状況に変化があった場合は随時見直します。「話を最後まで聞いて欲しい」との思いがある利用者の介護計画のケア内容には「本人の話を遮らずしっかり最後まで聞いてから返答する」と設定する等、利用者一人ひとりの希望が尊重された介護計画です。介護計画で立てたケア内容は、モニタリング評価表で毎日実施状況をチェックできるように工夫されています。計画作成担当者は「家族に聞いたり記録を読むなどして、本人の思いを知ること」「現場職員の目線も大事にすること」を心がけ、計画作成にあたっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子やケアプランの実践や結果等は介護記録に記録し、課題ニーズや実践についてはモニタリング評価表に記録。毎月毎の評価を行い介護計画の見直しの際活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>受診や日用品の買い物などは原則的には家族に委ねているが、対応することが難しい家族の状況によってはホームでの決まり事を押し通すことなくホームも協力し代行するなどして柔軟に支援している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域のカフェや催しを中心に入居者と共に参加し本人の出来る事を行い活気を生み、また楽しみを感じてもらう機会となるよう努めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所の協力医の他、本人やご家族がかかりつけ医を希望される場合は、ご家族協力のもと受診して頂き、困難な場合は職員が同行するなど支援している。眼科や歯科、耳鼻科なども同様に受診や往診にて対応している。</p>	<p>利用者や家族の希望に添った医療機関に受診できるよう支援しています。入居前からのかかりつけ医へは家族の協力で通院していますが、困難な場合は職員が支援しています。夜間や緊急時は訪問看護ステーションと24時間連携体制が確保されています。ホームの運営主体が医療法人ということもあり、利用者や職員の安心に繋がっています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時、医療面やそれ以外の情報、気付きや特記事項については訪看や協力医療機関看護師に口頭・文章で申し送りし密に情報共有を行い適切に医療を受けられるよう行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院に至った際は介護サマリーで情報を伝えると共に MSW とコンタクトをとり更に口頭で説明したり病院に面会に行くようにして情報の把握や共有に努め、本人やご家族の気持ちも伝えて早期に退院、長期化しないように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前よりご家族には重度化・終末期についての転居等の意向や延命についての意向など確認し、また医療ニーズが高くなるとホーム内で対応が困難となる内容(吸引・胃ろう)など説明している。身体状態低下が見られる方には協力医、医療職と共に本人、ご家族と意向の確認を行っている。	重度化した場合や終末期に対するホームの指針について、入居時に利用者や家族に説明して同意を得ています。本人や家族から意向を聞き、状況に応じて可能な限り、希望に沿った対応ができるようにしています。看取りについては、今後さらに体制を整えていく考えです。ホームでの看取りの事例はありません。	今後、利用者の重度化やホームでの看取り希望が予想されます。研修や看取りケアに関するマニュアル整備、介護技術のレベルアップ等、看取りケア実施体制の整備が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や異常など見落とさないように様子が普段と違う場合は V.S 測定やすぐに医療職に連絡し状態を説明するように統一して行っている。手当や初期対応についての勉強会は感染症の対策など実施している。その他実例と共に学んでいっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を行う際は火元とは逆方向に避難することや建物の構造上ベランダへ避難することとし、水害時は全入居者と職員が2階へ避難など決めているが浸透が薄い。地域と細かな協力体制は築けていないがそれらの必要性や今後連携していくこと等の意見交換は少しずつ行っている。	避難訓練を年3回実施しています。避難訓練に消防署の指導が得られていない状況ですが、今後引き続き協力を要請していく考えです。地域の災害訓練に参加の予定でしたが、台風で中止になり、参加できませんでした。今後も、地域との連携に積極的に取り組んでいく考えです。	非常災害時の水や食料品の準備が十分ではない状況ですので、3日分以上の備蓄の準備が望まれます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は敬語のみで話しかけず入居者一人一人に合わせた言葉遣いや接遇を心がけて尊重して対応している。排泄や個別ケアの際は皆の前で誘う事もあるがさりげなく声を掛けるなどプライドを大切に対応している。	ホーム長は職員に、利用者に対して人生の先輩としての敬意をもつことを伝えています。ホームの理念の一つに掲げている「真心あるケア」を実践しています。現場で利用者が不快に感じる場面を発見した際には、頭ごなしに注意するのではなく、職員が気づいてくれる指導方法を心がけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動へ参加を促す時やケアに声掛け・誘導を行う際は無理強いないよう入居者のその時の気持ちを尊重し自己決定できるように働きかけ、画一的なケアやスタッフの都合にあてはめた対応にならないように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の業務や生活面においての大まかな流れはあるが入居者一人一人のペースやしたいことは違うのでその時々希望に合わせて柔軟に考え尊重できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容や理美容の支援、また日頃から本人から出た衣類やおしゃれグッズの希望や好みをご家族に伝えプレスレットや腕時計などおしゃれが出来るように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は湯煎で温めるものを使用。混ぜたり取りわけたり盛り付け等の調理は入居者と一緒に行っている。禁止職や嫌いなメイン料理には追加食品で対応している。また週に何度かは入居者の食べたいものや季節に応じた料理を一緒に自分たちで作り食への楽しみを大切にしている。	食事は湯煎で温める物を使用しています。週に何度かの昼食は、利用者の食べたい物や季節に応じた献立をたて、手作りしています。職員は料理の得意な利用者から調理方法等を教えてもらうこともあります。それぞれの得意分野を活かし調理、盛り付け、片づけ等行っています。利用者は食器の片づけ等は日常的なこととして行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は日々ケア記録に残し把握している。食事が安心して摂れるよう形状や性状、器の種類などを考え実施。水分摂取が低下している際も本人の好むものを提供し量やコップの形状、出すタイミングなど検討し飲食してもらえるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食事後は個別に口腔ケアを促し拒否が強い際はうがいだけでも実施できるよう対応。口内に異常があるときは医療職に相談。物品は消毒など職員で行い定期的に交換し個人に合わせた物品の準備をご家族にお願いしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人一人の排泄パターンをつかみ声掛けしている。拒否や認識が難しい時は時間をずらし対応しなおす等配慮。本人からの自発的な希望や残存機能を活かすよう支援している。PWC等の物品やオムツ等は汚染・失禁状態やスキントラブルも含め検討し心地よく過ごせるよう常時振り返りを行っている。	排泄記録をとり、併せて水分摂取量も記録し、便秘等の体調管理に役立てています。記録から排泄パターンを把握し、支援の必要な利用者にはトイレ誘導を行い、ほぼ自立の利用者には排泄の確認をしています。身体状況に応じて、夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もいますが、日中はできる限りトイレでの排泄を促しています。トイレに誘導する時の職員間の声かけは、職員だけにわかる暗号で、利用者のプライバシーにも配慮しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘の予防として医療職・薬局と情報交換しての対応であったり、ホットパックで腹部を温めたり、水分や運動・食事などの状態の確認、また乳製品やオリゴ糖の活用、果物を提供したり、個々に応じてご家族にも乳製品や青汁等を依頼し便秘予防に取り組んでいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>共同生活であるため様々なリスクや対応に備えるため大枠の入浴予定(曜日や時間帯)は立てているが体調不良やその時の気分での拒否などはルールに縛られることなく柔軟に変更し入れる時に提供するなど支援している。</p>	<p>基本は、1週間に2回の入浴となっておりますが、入浴日以外でも希望があれば入浴できます。入浴を好まない利用者には無理強いせず、声かけの工夫や職員間の連携で安心して入浴してもらっています。浴室は明るく清潔です。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>入居者ごとに習慣や体力は違う為、個別に日中も臥床時間を設け体力を温存したり夜間入眠出来ないときは無理に入眠を進めず職員と談笑してすごしたり居間のソファも活用して安心して睡眠・休息ができるよう支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬や臨時薬の処方目的や副作用、また薬に変更があった際は日々の申し送りや医療職・薬局との情報交換や薬情より確認し把握に努めている。入居者への効果や変化については経過を追い医療職・薬剤師に常時報告・意見交換をするなどしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者毎の発言やご家族の意見、相談記録や以後の情報から大まかな日常生活での役割分担があったり、個別に応じて散歩や買い物、レクリエーションを行い楽しみや気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一度に全員のその時々ニーズにこたえるのは難しい為、その時の入居者の状態で外出支援を行ったり、また特定の方に偏り不公平とならないように心がけ支援している。ご家族が外食や買い物に連れて行ってくれたり、また頻繁に出かけたがる方やより個別的な場所についてはご家族に協力依頼し外出支援を行っている。	地域の行事に積極的に参加しているので外出の機会も多くあります。近くのコンビニへの買い物や散歩など、日常的に外出を楽しんでいます。馴染みの理髪店や同法人グループ内の美容院へ出かけたり、家族と一緒に外食や買い物に行く利用者もあります。春が近づき、気候がよくなり外出の機会も多く作れることを、利用者だけでなく職員も楽しみにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭所持については紛失の恐れがあり原則所持や職員の預かりも行わないこととしているが、実際お金を持っていないと落ち着かない方にはご家族に説明・同意のもと少額自己管理してもらったりホームの金庫で預かる等している。嗜好品を購入する際はホームで立て替えておりレジでの支払いは入居者本人に行ってもらう等している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>入居者が電話したい希望があれば本人が通話出来るように支援し、年賀状を送りたい等希望があるときもご家族協力のもと実行できるようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースで安心して過ごせるよう職員の出す音(声や物を動かす音)には配慮している。壁には入居者と一緒に創作した飾り物をして季節を感じてもらえるようにしている。電気やカーテンは目が疲れたりするためその時々で気にかけて対応している	ユニット名は「人にとって、誰にも心地よい空間でありたい」と「陽だまり・そよ風」と名づけました。その名のように、ホーム内は、施設を感じさせない、穏やかで温かい家庭的な雰囲気です。壁には利用者と職員が一緒に作った季節を感じる作品が飾られています。フロアの中にはゆったりとしたソファが置かれ、利用者は寛いでいます。また、利用者に居心地よく感じてもらう職員の工夫をあちこちに見ることができます。清掃、換気、消毒にも注意し、この冬は感染症の発生もありませんでした。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席は気の合う方と過ごせるよう配置。TVが見たかったり静かに休みたかったりその時々で自席にこだわらず対応している。それぞれの意向が違う為ソファを活用したり自室から椅子を出したりして、その時々で思い思い過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地よく過ごせるように、ご家族には使っていたものや馴染みの物をお持ち頂くよう説明し、生活習慣もふまえ仏壇やTV等も用意してもらっている。また居室配置も本人ご家族と相談し使い勝手が良いように話し合った上で設置している。	各居室は明るく、洗面台とベッド、クローゼットが備え付けられています。居室の入口には、花模様の表札を掲げ、暖簾をかけている利用者もあります。居室には、テレビ、仏壇、椅子やテーブル、家族の写真等、利用者の使い慣れた馴染みの生活用品を持ち込み、その人らしい安心できる居場所を作っています。利用者一人ひとりの過ごし方を尊重し、寛げる居室作りを大切にしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレのドア等には本人がわかりやすいように貼り紙をしたり入居者にとって危険となる物品は入居者の手が届かないところで管理するなどし、安全面に注意している。		